

A君とポップコーンの歩み

2011年4月



ポップコーン



パス式



筆式



フェルトペン式

大阪市立日吉小学校教諭
松崎としよ

A君とポップコーンの歩み

2011. 4. 2

大阪市立日吉小学校教諭 松崎としよ

はじめに

2009年A君が指筆に出会い、自分の思いを表現できることに喜びを感じた取り組みは、「あしあと」55号（平成21年度大阪市小学校特別支援教育担任者会発行）で発表した。

時を同じくして、指筆は2010年ポップコーンという名称で、(株)墨運堂から発売となり、テレビ局から取材依頼を多くいただいた。

A君の保護者は、ポップコーンを知ってもらうことが、同じような障害も持つ人達の役にたつことであればと、喜んで取材に応じてくださった。なにより、A君の輝いた表情が、取材にためらいを持っていた私の背中を押した。そして、ポップコーンの実践をさらに重ねていくことが、A君の望んでいることだと確信した。

以下は2010年春の取材前後から、A君がポップコーンを使って表現活動を行った、1年間の実践記録である。4年生になったA君の、1年間の歩みである。

(注：指筆とは、墨の老舗墨運堂が開発した、直接指に装着して使用する筆である。)

取り組みの経過



4年生に進級

昨年に引き続き書道は、学級の子どもの進捗にあわせて、ポップコーンで行うことにした。春休みのブランクがあったため、力の入れ具合や支え方が、思うようにいかなかった。しかし持ち前のがんばりで、やがて思った表現ができたようであった。

取材の依頼があったのもこの頃である。A君に、「どうする。取材をしてもらうのだったら、頑張って練習しなくちゃいけないけど、できる。」と聞くと、満面の笑顔で頷いた。

6月18日



トレーニングを重ねる

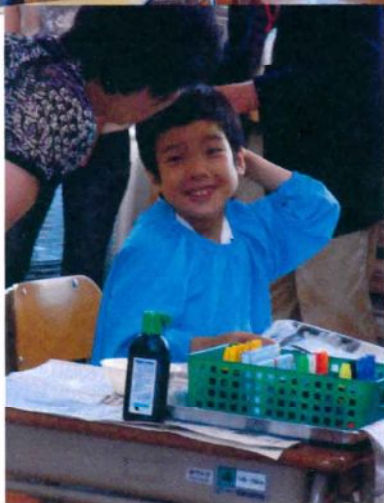
大きな文字は比較的書きやすい。それに比べて、半紙の左に書く、名前や学年は、難しい。理由は、腕を持ち上げ自力でささえ、筆先が軽く半紙に触れるようにするには、持久力を要するからである。「支えるのはたいへんだけれど、それがトレーニングだし、パワーが付くよ」と励ますと笑顔で頷いた。 7月3日



テレビ取材を受ける

テレビ大阪の取材当日。私の緊張をよそに、A君は、実に堂々としていた。「頑張って練習したから見てね」という表情だった。周りが「疲れた」と聞いても即座に「疲れてない」と手を振った。

7月14日





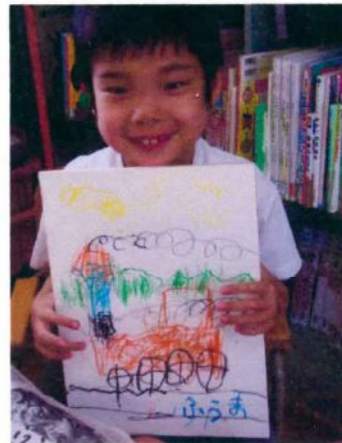
「新作ポップコーン」が届く

取材後、筆式の他に、先端がパスやカラーフェルトペンのものであれば便利ですと提案した。すると墨運堂はその提案に応えた商品開発をして、新作が届けられた。(左の写真)手前がパス、上がフェルトペン式である。学級となかよし教室のどちらにもこのセットをおき、いつでも一人で使用できるようになった。なかよし学級で、使い方のトレーニングも行った。トレーニングは重要である。

7月



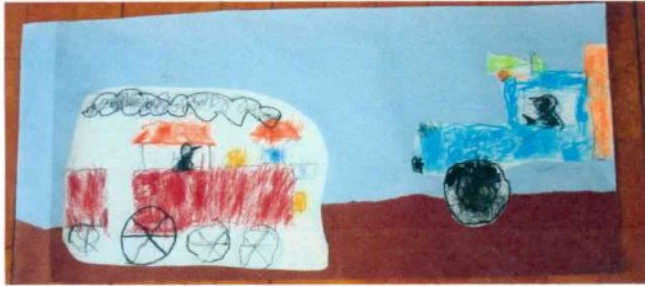
フェルト式・パス式ポップコーンの練習



パス式ポップコーンでの実践

筆と比較すると、パスとはいえ、塗るのに力を要する。しかし、多くの色を塗りたい場合は便利である。本作品はベニア板に書いてある。後で釘を打ってコリントゲームになった。7月





パス式の作品

夏休み、運動会が終わり、芸術の秋。参観の学級掲示に自由画を貼りたいという学級担任の依頼を受け、大好きなトラックを、パス式で描くことにした。このころになるとパス式も力強く塗ることができるようになった。11月8日



正月の書初めの練習

長い半紙に筆式でかく練習をする。ひさしぶりの筆である。間があくと、勘がもどるのに、少しトレーニングが必要だ。特に細筆で学年・名前を書くときのコツを思い出すのに、何度か練習をした。筆式は始めに使い出したこともあり、大好きである。うまく画面におさまりに大満足。

12月13日



自画像を木版にする

3学期が始まった。4年生の図工は、木版で自画像を彫り、刷る課題である。下絵を筆式に墨をつけてかくことにした。太い筆をつかって自分の顔を描いた。彫るところを少なくするために、後で、墨の線を彫って仕上げた。友だちに、似てるねといわれて、得意そうだった。 1月17日



卒業を祝う会の飾りを作る

なかよし学級でともに学んだ6年生の友達を見送る会を開くことになった。会場に飾る「卒業列車」の車体を飾るキャラクター「ウッドペッカー」を筆式で描く。墨が乾いてから、ポスターカラーで彩色した。筆式は、大きな画面も楽に塗れる。短時間にかわいい作品が出来上がった。

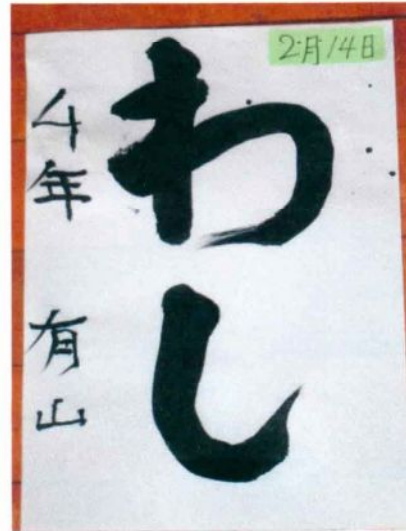
1月31日



わしを書く

4年生も終わりに近づいた。ひらがなのわしをのびのびとかいた。かなり短時間でかくことができるようになった。

2月14日



「天空」を書く

4年生の最後の書道の課題は「天空」。漢字2文字にも、挑戦できるようになり。大きな成長を感じる。

払いがうまくできるようになっている。伸びやかな「天」を褒めると非常に喜んでいて。評価がA君をさらに伸ばしていく。

2月28日



トレーニングの先生と

月1回の割合で、トレーニングの先生が派遣されてくる。1年前と比べると格段の成長を先生も非常に喜ばれている。現在では歩行器に頼らず、かなりの距離を自力で歩行できるようになった。A君の、なにごとにも最後までやり抜こうと頑張る気持ちが、奇跡的な成長に繋がっていくのだろう。この気持ちを大切に、伸ばしていきたいと願わずにはいられない。

3月





「ゆめにむかって」制作

なかよし学級では、毎月「なかよしアート」と呼ばれる、共同作品に取り組んでいる。3月は「ゆめにむかって」というタイトルで、各自が等身大の自画像を描いた。大きなダンボールに横たわり、自分の体を写し取る。それを彩色して切り取り、手に自分の夢を書いた花を持つという手順で作品にした。大きい作品であるので、筆式で下絵を描き、彩色した。手に持った夢の花には「トラックの運転手さん」。トラック好きは一貫している。きっとこの夢も実現していく事だろう。 3月

おわりに

A君とポップコーンとの1年間の関わりを追った。週1時間、かならずポップコーンの実践を位置づけたことは、大変良かったと思う。連休や夏休みなどの長期休暇のあとは、持つ力や支える力が低下していた。やはり継続指導は重要であると感じた。A君自身、月曜日はポップコーンで習字をかいいたり、絵を描いたりすることを楽しみにしている様子が見られた。エプロンを着たり、ポップコーンを装着したりも、自力でできるようになった。やがて私が手で支えることも嫌がり、何でも自分でしたい思いが強くなった。他の子どもの方を見ているうちに、さっさと書いている場面も見られるようになった。

現在下書きの鉛筆線は、指導者が入れているが、やがて、その部分も自力でできるまで進歩するのではないかと思う。なぜなら、習字の文字の場合、一筆目の筆を下ろしたい場所に、うまく筆先を下ろせなくて、手を添えて支援していたが、その必要が、この1年の間に減少していった。そして思う位置に筆先を下ろすことを、楽しむ姿がみられるようになり、やがては手を添えることを断るようになった経過をたどった。

今後ポップコーンのさらなる開発を期待する。よい学習指導材や用具は、子どもの可能性を広げる。子どもに勇気や希望を与えるものであると確信する。指導者としては、継続指導そして、実践の工夫や、実践を広く紹介する努力を続けたい。